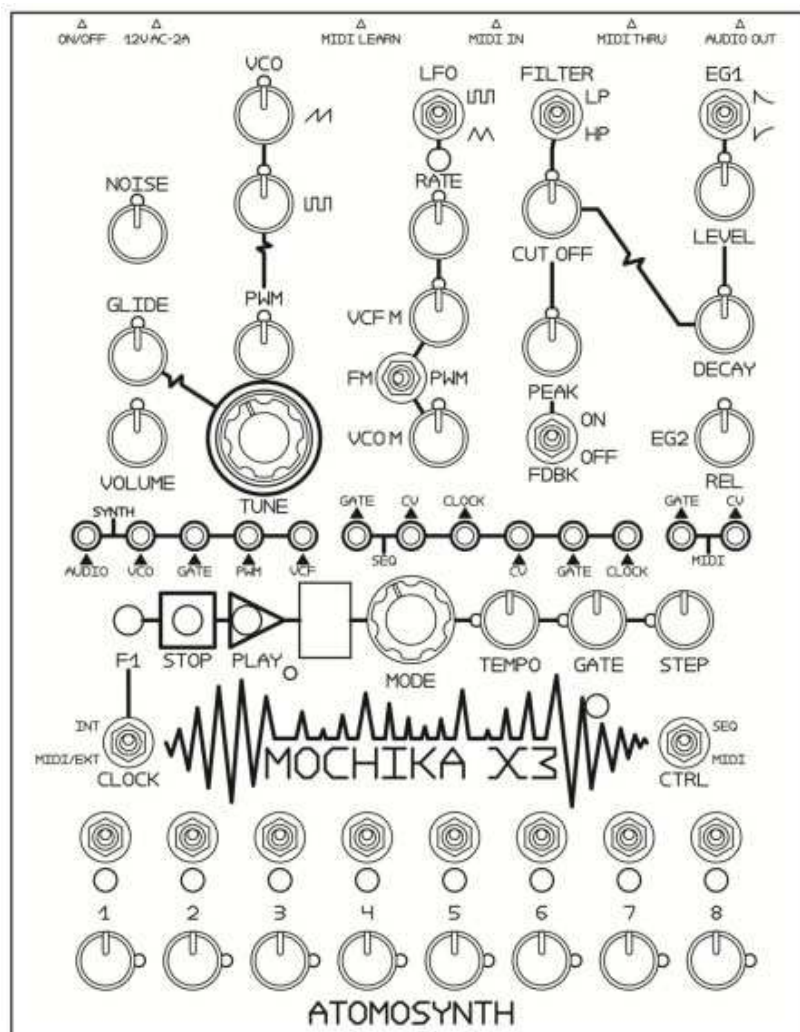


AtomoSynth / Mochika X3



日本語マニュアル

(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

電源について

付属の専用パワーサプライ（PSE 準拠品、AC-AC12V/1000mA、100V 日本国内仕様）を必ずご使用ください。また間違えて AC-DC タイプのパワーサプライを絶対に接続しないようにご注意ください。製品の故障の原因となります。必ず付属の AC-AC アダプターのみをご利用ください

設置に関するご注意

ラジオやテレビなどの電波受信機器などの影響をうけないよう設置場所にご注意ください。

製品のケアについて

本製品には絶対にリキッドタイプ（液状）のクリーナーを使用しないでください！特にシンナーやポリッシュなどの液体で拭くと製品に大きなダメージを与える場合があります。必ず乾いたクロスや布などで【乾拭き】で、汚れを拭きとるようにしてください。

ベーシックなオペレーション

1. 付属の 12V、AC-AC アダプターを接続してください（製品に付属のもの以外は使用しないでください）
2. 出力をモノラルの 1/4"標準フォンジャックのケーブルでアンプに接続してください。
3. リアパネルの on/off スイッチをオンにしてください。
4. CLOCK スイッチを INT ポジションに設定します
5. MODE ノブを回して例えば「8」にあわせます。
6. STEP ノブを左回しきりに設定（シーケンスはステップ 1 からスタートする設定）
7. TEMPO ノブをお好みのテンポに設定。
8. GATE ノブを低めから中くらいの位置に設定（1/4 位のポジション～真中）
9. PLAY ボタンを押してシーケンスをスタートさせる
10. 各ステップの PITCH ノブを調整してフレーズを作る
11. シンセサイザーの各パラメーターを調整して音色を作る。
12. MODE ノブを回して(その後に PLAY ボタンを押すと新しいモードが適応されます)、異なるモード設定を試してみましょう！
13. シーケンスを“FREEZE”させたい場合には、F1 ボタンを押し続けます。同じステップを F1 ボタンを離すまで連続してプレイできます（*ノーマルのシーケンスモード、または Ping-Pong シーケンスモードの時のみ）。

14. 異なるステップ・ポジションからシーケンスをスタートさせるには STEP ノブを右側に回します。少し回すとシーケンスがステップ 2 や 3 からスタートし、右に回しきるとステップ 8 のみが演奏されます。
15. STOP を押すと演奏を終了できます。

MIDI オペレーションと MIDI チャンネル設定

1. 外部 MIDI 機器（MIDI キーボードなど）の MIDI 出力を、MOCHIKA X3 の MIDI 入力に接続します。
2. リアパネルにある MIDI LEARN ボタンを一度押します。隣の LED が光ります。
3. 接続した外部 MIDI 機器からノートを送ります（例えばキーボードの鍵盤を押す）。LED が暗くなり、MOCHIKA X3 が自動的に外部 MIDI デバイスと同じ MIDI チャンネルに設定されます。この設定は内蔵メモリに保存され、機器の電源を切っても保存されます。
4. CTRL スイッチを MIDI ポジションに設定します（これで MOCHIKAX3 は外部の MIDI 信号を、内蔵の MIDI to CV コンバーターで変換し、アナログシンセサイザーで発音します。MOCHIKA 内蔵のシーケンサーからは切り離されます）
5. 外部 MIDI デバイスをスタートさせます

MIDI シンク

1. 外部 MIDI 機器の MIDI 出力を MOCHIKA X3 の MIDI 入力に接続します。
2. CLOCK スイッチを EXT/MIDI ポジションに設定します。
3. CTRL スイッチを SEQ ポジションに設定します（MOCHIKA X3 のアナログシンセは、内蔵のシーケンサーによって演奏されます。内蔵の MIDI-CV インターフェースは無効化されます）。
4. MODE を MODE 番号 0（オシレーターモード）以外にあわせます。
5. TEMPO ノブを真ん中あたりに設定します。MICHIKA X3 はクロック・デバイダー機能を持っています（詳細は後記）。
6. PLAY ボタンをプレスしてください。MICHIKA X3 は外部の MIDI マスター機器によってシンク同期します。

外部アナログ・クロックによる同期

1. モジュラーシンセなどからの、アナログ・クロック・シグナルまたはパルス（0 to 12V）、LFO 信号などを MOCHIKA X3 パッチベイセクションの CLOCK インพุットに接続します。
2. CLOCK スイッチを EXT/MIDI ポジションに設定します。
3. CTRL スイッチを SEQ ポジションに設定します。
4. MODE を MODE 番号 0（オシレーターモード）以外にあわせます。
5. TEMPO ノブを右回しきりのポジションにセットします。ユニットはこの設定で 1 ステップ=1 パルスとなります。その他にも様々なセッティングをお試しください。TEMPO ノブが低いポジションになる場合には、1 ステップが 3、6、12、24 などのクロック・パルスになります（詳細は後記）。
6. PLAY ボタンをプレスしてください。MICHIKA X3 は外部のクロック信号によって同期演奏します。

シーケンス・トリガーと MIDI によるトランスポジション

1. MIDI コントローラー機器（MIDI キーボードなど）の MIDI 出力を、MOCHIKA X3 の MIDI 入力に接続します。
2. CLOCK スイッチを INT ポジションに設定します。またはパッチベイの CLOCK 入力に外部アナログ・クロックを接続する場合には、EXT/MIDI ポジションにも設定できます。MIDI クロックに同期させたい場合には、MIDI コントローラー機器が、MIDI クロック信号を送信できることを確認してください。
3. CTRL スイッチを SEQ ポジションに設定します。
4. MODE をモード番号 0 以外のいずれかのモードにセットし、PLAY ボタンを押して動作を確認後、いったん STOP を押します。
5. TEMPO ノブを希望のテンポに合わせてください。
6. パッチケーブル（3.5mm、別売）を使用して、MOCHIKA X3 のパッチベイ・セクションにある、MIDI CV 出力から、SEQ CV 入力にパッチします。また MIDI GATE 出力を SEQ GATE 入力にパッチします。
7. 外部 MIDI コントローラー機器から演奏をスタートさせます。MIDI コントローラー機器からノートが演奏されると、MICHIKAX3 のシーケンサーがスタートします。また MIDI コントローラー機器から送られたノートで、MOCHIKA X3 のシーケンスがトランスポーズします。

シーケンサー・モード

MOCHIKA X3のシーケンサーは様々なモードを搭載しており、バリエーション豊かなクリエイティブな演奏が可能です。MODEノブを回すごとにモード番号が表示されます。

1. Oscillator mode

【数字の0が表示された状態でPLAYを押す】

オシレーターモードを選択すると、1つのステップだけを再生します。STEPノブで各8つのステップを移動させながら、シーケンス全体のチューニングしていく場合に便利です。ゲートタイムで長さをチューニングします。GATEタイムを最大（右回しきり）にするとSTOPボタンを押すまで発音し続けます。GATEノブを絞りきると発音しません

2. Sequence mode

【数字の2～8が表示された状態でPLAYを押す】

通常のフォワードシーケンスです。数字はシーケンスのステップ数を表します。例えば3ステップのシーケンスにしたい場合にはモードノブを回して、ディスプレイに3の数字が表示されたら、PLAYを押して決定します。演奏中に他の番号を選択して再度PLAYを押せば、今度はその数字が適応されます。

3. Ping Pong mode

【数字の3.～8. (点が追加！)が表示された状態でPLAYを押す】

フォワード&バックワード（行ったり来たり）のピンポン・シーケンスモードです。番号がシーケンスのステップをあらわしています。

4. Random mode

【アルファベットの r が表示された状態でPLAYを押す】

シーケンサーはステップをランダムに演奏します。

5. Random repetition mode

【アルファベットの **r**. (点が追加！) が表示された状態でPLAYを押す】

各ステップでランダムな回数リピートをします。最大のリピート回数を2回～8回で、演奏中にSTEPノブを動かすことで設定できます(GATEタイムを絞り気味にするとリピート回数が分かりやすいです)

6. Repetition mode

【数字の1*～8* (点滅する点が追加！)が表示された状態でPLAYを押す】

各数字の横に点滅するドットがある場合にはRepetition Mode です。

各数字がステップの番号、各ステップごとに1回～8回の設定したリピート回数で演奏ができます。リピート回数を設定するにはF1ボタンを押しながらMODEノブを回します。例えばステップ番号3の時に、そのステップを5回リピートさせたい場合には、MODEノブをディスプレイに3* (3の横のドットが点滅している状態) が表示されるまで回し、F1のボタンを押したまま保持します。その状態のまま今度はリピートさせたい回数の数字 (ここでは5) を選び、F1ボタンを離します。F1を離せばまた数字の3が表示されていると思います。設定したリピート設定を全てリセットしたい場合はF1ボタンを押しながらSTOPを押します。これらの動作はシーケンサーがノーマルまたはピンポンモードで動作している間にも、シーケンスが停止している時にも適応できます。

7. Gate type mode

【数字の(1)～(8) (数字自体が点滅！)が表示された状態でPLAYを押す】

ゲートタイプモードでは指定したステップ番号で「ノーマルゲートタイム (GATEノブで調整されたゲートタイムを適応)」または「ホールドゲートタイム (ゲートが常にアクティブ)」のどちらかを選択できるモードです。ゲートタイプを選択するには、MODEノブを回して希望の数字 (ステップ番号) が点滅する表示にします。その状態でF1ボタンを押しながらMODEノブを回すと表示が「A(ノーマルゲートタイム)」または「b (ホールドゲートタイム)」で切り替わります。好みの方が表示されたらF1ボタンを離します。この切替はシーケンサーがノーマルまたはピンポンモードで演奏中、またはシーケンサーが停止中にも行えます。

8. Gate Arpeggio modes

【アルファベットのA～Jが表示された状態でPLAYを押す】

8パターンのゲートアルペジオをプレイできます (A, b, C, D, E, F, H, J) 。アルペジエーターモードでPLAYを押すと1つのステップだけをリズムパターンで演奏します (GATEタイムを絞り気味にするとリズムが分かると思います) 。STEPノブでステップを移動させて演奏します。GATEノブで長さを調整してください。

Front panel elements

各パラメーターの説明

Noiseノブ

ノイズ信号をミックスします。

VCOノブ (saw tooth)

VCOの波形 (saw tooth) のレベルを調整します。上側のノブです。

VCOノブ (pulse)

VCOの波形 (pulse) のレベルを調整します。下側のノブです。

各VCO波形のミックスに対するレベルはフィルターのレスポンスに影響するので、LEVELが低いポジションから真中程度では、温かいサウンドでフィルターピークも中くらい、高い設定では特に低周波数に強くエフェクトがかかります。

PWMノブ

Pulse 波形の幅を設定します

TUNEノブ

VCOのピッチレンジを調整します

GLIDEノブ

グライドタイム（ポルタメントタイム）を調整できます

VOLUMEノブ

全体のアウトプットレベルを調整します

LFOセクション

LFO WAVEスイッチ

LFOの波形を矩形派、三角派で切り替えます

LFO RATEノブ

LFOの速度をセットします。LEDが点灯し実際の速度を表示します

VCF Mノブ

（Voltage controlled filter modulation）は、フィルター・セクションへ送られるLFOレベルを調整します。

FM/PWMスイッチ

LFOがVCOの周波数をモジュレートする(FMポジション)、またはVCOのパルス幅（PWM）をモジュレートするのを選択可能です。

VCO Mノブ

VCOへ送られるLFOモジュレーションのレベルを調整します。

LFO LEVEL

LFO出力のレベル(LFOの深さ)を調整できます

フィルター・セクション

LP/HPスイッチ

LPポジションはローパスフィルター、HPポジションはハイパスフィルターです

CUT OFFノブ

カットオフ周波数を調整します

PEAKノブ

レゾナンス・フィードバックの量を調整

FBDKスイッチ

ONポジションではオーディオ出力はオーディオ入力にフィードされます。低域のエフェクトがわずかに変化するのでお楽しみいただけます。

EG(Envelope Generator)セクション

EGスイッチ

フィルター・カットオフをモジュレートするための、エンベロープカーブを設定できます。通常のノーマル（上側）と、その逆の波形（下側）をセレクトできます。

EG LEVEL ノブ

フィルターのためのエンベロープ・モジュレーションのレベル設定

EG DECAY ノブ

フィルターのためのエンベロープ・モジュレーションのディケイタイムの設定

EG2 REL ノブ

エンベロープ・ジェネレーター2（出力アンプ）のリリースタイムを調整。

パッチベイ・セクション

シンセ・コネクション

AUDIO(▲インプット)

ラインレベルのオーディオ信号をオシレーターとノイズシグナルにミックスできます、またフィルターやエンベロープ・ジェネレーターも適応できます。MOCHIKA X3のオーディオ入力ゲートが開いている時（GATEのLEDが点灯している時）のみミックスに出力されますので、GATEノブを調整してください。また外部シンセサイザーなどからゲート信号をパッチベイに入力している場合、または内蔵のMIDIインターフェイスにも同じく、ゲート信号のあるときに外部オーディオ信号をミックスできます

VCO(▲インプット)

CV信号(1V/per Octave)を入力してオシレーターのピッチをコントロールできます。プラグがこの端子に入力されるとVCOは内蔵シーケンサーとMIDIインターフェースから切り離されます。

GATE(▲インプット)

GATE信号(0~12V)を入力してエンベロープ・ジェネレーターをトリガーします。プラグがこの端子に入力されるとゲート・シグナルは内蔵シーケンサーとMIDIインターフェースから切り離されます。

PWM(▲インプット)

ボルテージ信号(0~12V)を入力してパルス波形の幅をモジュレーとします。プラグがこの端子に入力されるとPWMは内蔵シーケンサーとMIDIインターフェースから切り離されます。

VCF(▲インプット)

ボルテージ信号(0~12V)を入力してフィルターのカットオフ周波数をコントロールします。プラグがこの端子に入力されると、コントロール・ボルテージはLFOとカットオフ・ノブのボルテージにミックスされます。

SEQ(シーケンサー)コネクション

GATE(▲アウトプット)

内部シーケンサーのゲート信号(0~5V)を出力します。

CV(▲アウトプット)

内部シーケンサーのCV信号(0~4V)を出力します。

CLOCK(▲アウトプット)

内部シーケンサーのクロック信号(0~5V)を出力します。もし外部クロックに同期している場合には、接続されている外部クロックの信号を出力します。またMIDIクロックに同期している場合にはその信号に同期した信号を出力します。

CV(▲インプット)

外部シーケンサーやCVキーボードなどからのCV信号を入力します。内部のシーケンサーがジェネレートするCVにミックスされます。

GATE(▲インプット)

外部シーケンサーやCVキーボードなどからのGATE信号 (0~12V) を入力します。内部のシーケンサーをスタートさせます。

CLOCK(▲インプット)

外部シーケンサーからのクロック信号 (0~12V) を入力します。MOCHIKA X3はTEMPOノブとPLAYボタンでクロック・デバイダーを設定できます (TEMPOノブの説明を参照してください)。CLOCKインプットにコネクタが接続されると、内部クロックと、内蔵のMID-CVインターフェースは無効になります。

MIDIコネクション

MOCHIKA X3はMIDI to CVインターフェースを内蔵しています。

GATE(▲アウトプット)

内蔵のMID-CVコンバーターのゲート信号 (0-5V) を出力します。

CV(▲アウトプット)

内蔵のMID-CVコンバーターのCV信号 (57 notes) を出力します。

各ノブやボタンの説明

F1ボタン

ノーマルまたはピンポンモードの時にはF1ボタンを押すことで、シーケンスをフリーズ（同じステップをF1ボタンを押している間、繰り返し再生）させることができます。F1ボタンを離すと通常のシーケンスに戻ります。

またF1ボタンをおしながらMODEノブをチューニングすることで「Repetition Mode(ドットが点滅)」時の各ステップの繰り返し回数を設定できます（後記参照）。また「Gate Mode(数字が点滅)」時には各ステップのゲートタイプが選択できます（別記参照）。

STOPボタン

シーケンサー動作をストップさせます。「Repetition Mode(ドットが点滅)」、「Gate Mode(数字が点滅)」時にはF1ボタンを押しながらSTOPボタンを押した場合には、全てのステップの繰り返し回数とゲートタイプの設定をリセットします（別記参照）。

PLAYボタン

シーケンスをスタートさせます。またはモードの変更、クロック入力の変更などを決定します。シーケンスが演奏中にPLAYボタンを押すと、シーケンスを最初のステップにリセットします。シーケンスを演奏中に異なるシーケンス、オシレーター、アルペジオモードをMODEノブでチューニングした場合には、PLAYボタンを押すと変更を適応します。

ディスプレイ

モードやステップナンバーを表示しています。

MODEノブ

モードや繰り返し回数やゲートタイプをセットする場合に使用します。

TEMPOノブ

CLK switcherがINT(インターナル)のときには、テンポをチューニングできます。

CLK switcherがEXT/MIDIのときには、クロック信号のデバイダーになります。

1, TEMPOノブを左まわしきりに設定すると、シーケンサーは24のクロック、またはMIDIパルスごとに、1ステップ進みます。

2, TEMPOノブを真中付近（左寄り）に設定すると、シーケンサーは12のクロック、またはMIDIパルスごとに、1ステップ進みます。

3, TEMPOノブを真中付近（右寄り）に設定すると、シーケンサーは6のクロック、またはMIDIパルスごとに、1ステップ進みます。

4, TEMPOノブを真中以降に設定すると、シーケンサーは3のクロック、またはMIDIパルスごとに、1ステップ進みます。

5, TEMPOノブを右回し切りに設定すると、シーケンサーは各クロックパルス、またはMIDIパルスごとに、1ステップ進みます。

GATEノブ

全ステップのゲートタイムをチューニングできます。ただしGate Type B(HoldGate)にセットした場合には無効です。

STEPノブ

ノーマルのシーケンスまたは、ピンポンモードでは、STEPノブでは最初のステップ位置が設定できます。

左に回し切りでは、シーケンスは1番目のステップから再生されます、右に回していくとステップを途中から再生し、右に回し切りではステップ8のみを再生します。

オシレーターモード（表示の数字が0）、またはゲートアルペジオ・モードでは、ステップを移動して演奏できます。

CLOCKスイッチ

クロック・ソースを INT(インターナル)、または EXT/MIDI (MIDIなどの外部同期信号) に切り替えます。クロックソースの変更を適応するにはPLAYを押します。

CTRLスイッチ(CONTROLスイッチ)

コントロール・ソースを SEQ(MOCHIKA X3内蔵のシーケンサー)、または MIDI (MOCHIKA X3内蔵のシーケンサーは外部MIDI機器やCV信号によってコントロールされる) 切り替えます。

Stepスイッチ

各ステップのゲート・シグナルはオン・オフできます。

Step LED

各ステップがアクティブな場合にはLEDが点灯します。

Stepノブ

各ステップはピッチ (ボルテージ) をセットできます。

Rear panel elements

ON/OFFスイッチ

電源をオン/オフするスイッチです。

12V AC-AC アダプター入力

付属の専用パワーサプライ（PSE 準拠品、AC-AC12V/1000mA、100V 日本国内仕様）を接続します。間違えて AC-DC タイプのパワーサプライを絶対に接続しないようにご注意ください。製品の故障の原因となります。必ず付属の AC-AC アダプターのみをご利用ください

MIDI LEARNボタン

接続した機器のMIDIチャンネルを自動で認識できるスイッチです。一度ボタンを押してから、接続したMIDI機器のノートを送ってください（MIDIキーボードなどの鍵盤を押す）。MOCHIKA X3はMIDIチャンネルを自動で設定メモリに保存します。

MIDIシグナルLED

MIDI信号を受信するとLEDが光ります。

MIDI IN コネクター

MIDI入力です。

MIDI THRU コネクター

MIDI入力を受信した信号を他の機器へフィードするためのスルー出力です。

MIDI OUT コネクター

MIDI出力です。